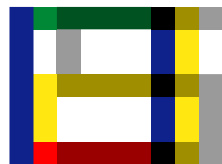

2019年度

教員免許状更新講習
受講案内



NUAS

名古屋学芸大学

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS AND SCIENCES

〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57 番地
TEL : 0561-75-7111 (代表) FAX : 0561-73-8539
URL : <https://www.nuas.ac.jp/index.html>

目 次

1. 開講案内	
◆ 講習日程・受講対象者	1
◆ 講習タイムテーブル	1
◆ 受講料	1
◆ 修了認定試験について	1
◆ 受講申込の手続き	2
◆ 受講料のお支払い及び返金について	2
◆ 関係書類の送付	2
◆ 受講科目の変更、キャンセルについて	2
◆ 免許状更新講習事前アンケート、事後評価について	2
◆ 講習会会場、駐車場について	2
◆ 当日の携行品について	3
◆ 遅刻・退室・早退等について	3
◆ 台風等により講習が実施できない場合の対応について	3
◆ 注意事項	3
◆ 修了（履修）証明書	3
2. 講習シラバス	
< 必修領域 >	
「教育の最新情報」（共通）	4
< 選択必修領域 >	
「道徳教育」（教諭、養護、栄養）	5
< 選択領域 >	
「対人援助者としての自己を理解する」（教諭、養護、栄養）	6
「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿～健康な心と体・豊かな感性と表現を中心に～」（教諭、養護、栄養）	7
「食物アレルギーの基礎と対応」（教諭、養護、栄養）	8

1. 開講案内

◆講習日程・受講対象者

領域	講習名		時間	定員	受講対象免許種	日程	受講料
必修	A	教育の最新事情	6	30	全教員	8月19日(月)	6,000円

領域	講習名		時間	定員	受講対象免許種 (主な校種)	日程	受講料
選択必修	B	道徳教育	6	30	教諭 養護教諭 栄養教諭 (小・中)	8月20日(火)	6,000円

領域	講習名		時間	定員	受講対象免許種 (主な校種)	日程	受講料
選択	C1	対人援助者としての自己を理解する	6	30	教諭 養護教諭 栄養教諭	8月21日(水)	6,000円
	C2	幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿～健康な心と体・豊かな感性と表現を中心に～	6	30	教諭 養護教諭 栄養教諭 (幼・小)	8月22日(木)	6,000円
	C3	食物アレルギーの基礎と対応	6	30	教諭 養護教諭 栄養教諭 (幼・小・中)	8月23日(金)	6,000円

- 1) 申込数が各講習5名以下の場合には非開講となることがあります。あらかじめご了承ください。開講しない場合は、申込期間終了後に決定し、ご連絡します。
- 2) ご自身が受講対象者に該当するかは、文部科学省ホームページの「修了確認期限をチェック」でご確認ください。また、免許状更新講習についても解説されていますので併せてご確認ください。
※文部科学省ホームページ。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/003/index1.htm

◆講習のタイムテーブル

9:15	9:40	11:10	11:25	12:55	13:50	15:20	15:35	17:05
受付	90分講義	休憩	90分講義	昼食	90分講義	休憩	90分講義	

※当日の日程については、講習により異なる場合があります。

◆受講料

全講習 各6,000円(1時間、1,000円を基準としています。)

◆修了認定試験について

修了認定試験は原則として、各講習の時間内(最終時限等)に行います。

◆受講申込の手続き

- ①募集期間：2019年4月1日(月)～4月26日(金)先着順
 ②申込方法：専用フォーマット(免許状更新講習受講申込書)に必要事項を記入し、本学教員免許状更新講習係宛に郵送(4月26日(金)必着)してください。必ず受講対象者であることを証明する学校長等の職印の押印を受け、顔写真(縦4cm×横3cm)を貼付し、ご本人の認印を押印してください。併せて、受講可否を通知する返信用封筒(長形3号、82円切手貼付、宛名記載)及び免許状更新講習事前アンケート(1講習につき1枚)を同封してください。
 ③受講可否の結果：申込の際、同封いただいた返信用封筒にて受講の可否を連絡します(5月17日(金)までに届かない場合や記載事項に誤りがある場合はご連絡をお願いします)。受講許可者には、受講登録確認票及び受講許可証を送付します。

◆受講料のお支払い及び返金について

受講結果のお知らせの際、同封する受講登録確認票に記載されている受講料を指定の期日 2019年6月28日(金)までにお支払いください。期日までにお支払いがない場合は、辞退されたものとして扱いますのでご注意ください。(辞退の場合は必ず連絡を入れてください。)

申込後やむを得ず辞退される場合、受講料については以下のとおり取扱います。

キャンセル料については下表を確認ください。

申込取消しの時期	返金額
① 7月31日(水)16時まで	全額(振込手数料を差し引きます)
② ①以降～8月9日(金)12時まで	事務手数料2,000円を受講料から差し引いた金額
③ ②以降～当日	返金なし

<キャンセル料>

講習	講習開始日	受講料	受講取消し料なし	②の期日	③の期日
A	8月19日(月)	6,000円	7月31日(水)16時迄	2,000円	全額
B	8月20日(火)	6,000円		2,000円	
C1	8月21日(水)	6,000円		2,000円	
C2	8月22日(木)	6,000円		2,000円	
C3	8月23日(金)	6,000円		2,000円	

◆関係書類の送付

受講に際しての関係書類は郵送でお送りします(7月31日(水)までにお手元に届かない場合はご連絡ください)。

◆受講科目の変更、キャンセルについて

申込期間後の受講科目変更はできません。申込後の講習キャンセルは直ちにご連絡をお願いします。

受付方法	受付時間
電話又は窓口	受講当日までの 9:30～16:00(但し、土日祝日及び大学休業期間(8/10(土)～8/18(日))を除く)

◆免許状更新講習事前アンケート、事後評価について

事前アンケートは講習が受講者にとって有益かつ効果的なものとなるよう、担当者が受講者の課題意識を把握することを目的に実施するものです。受講の可否や講習の評価とは一切関係はありません。

また、講習終了後の「事後評価アンケート」にもご協力ください。

◆講習会会場、駐車場について

講習の会場については、関係書類に同封します「会場案内」でご確認ください。駐車場はございません

るので、公共交通機関をご利用ください。なお、本学専用バス(上社発、赤池発)もご利用いただけます。

◆当日の携行品について

- ①受講許可証、受講案内、シラバス等
- ②筆記用具、ノート
- ③各講習シラバスに記載されているもの

◆遅刻・退室・早退等について

遅刻・早退及び受講中の退室等は、原則として認められませんので、ご注意ください。1講習6時間に満たない場合は認定されません。

◆台風等により講習が実施できない場合の対応について

台風等により講習が中止となった場合は、振替日は8月27日(火)です。1回の実施となります。振替日に出席できない場合は、該当講習の受講料を全額返金いたします。

◆注意事項

- ①履修認定対象職種以外の方が受講されても、履修認定されませんのでご注意ください。
- ②修了確認期限を延期している場合、免許状更新講習の受講期間は、延期後の終了確認期限から起算する必要があり、受講期間外に講習を受講した場合、免許状更新のための講習として認められませんので、ご注意ください。
- ③各講習は座席指定で行います。会場入り口の案内に従ってご着席ください。
- ④携帯電話等音の出るものは、受講中は電源をお切りください。
- ⑤教室内は室温調整を行います。座席の位置により温度が異なる場合があります。温度調整の可能な服装でお越しください。
- ⑥建物内は全域禁煙です。(建物外に指定の喫煙場所があります)
- ⑦昼食は各自でご持参ください。(学生食堂、コンビニは一部のみ営業予定)

◆修了(履修)証明書

今回の講習を修了(履修)された受講者には、「免許状更新講習修了証明書」又は「免許状更新講習履修証明書」を発行いたします。証明書の郵送は10月4日(金)を予定しています。

<お申込み・お問合わせ先>

名古屋学芸大学 教務課 教員免許状更新講習係
〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地
TEL 0561-75-7111(代表) 9時30分~16時
(土日祝日及び大学休業期間を除く)
大学休業期間 2019年8月10日(土)~8月18日(日)

2. 講習シラバス

役職は 2019. 4. 1 現在

<必修領域>

8月19日(月) 講習教室124教室	
講座対象者：全教員	
担当：ヒューマンケア学部 子どもケア学科 特任教授 福應 謙一、教授 津金 美智子、 教授 黒田 美保、特任教授 浅田 謙司	
講座名【必修】教育の最新事情	
<p><要旨></p> <p>本講習では、教育現場の現状を確認するとともに、国及び世界の教育動向、不易の部分としての子ども観・教育観・教育的愛情や倫理観等の社会的要請の強い事柄、特別支援学校等の子どもの発達に関する課題(脳科学を含む)、子どもの変化についての理解を踏まえた適切な指導の在り方、カウンセリングマインドの必要性等について理解を深める。</p>	
各時間の講習内容	備考
<p><1時間目:福應></p> <p>「教育・子どもの現状と求められる教育者としての役割」</p> <p>学校を取り巻く状況、学校教育が抱える問題等を踏まえ、今求められる教員の資質・専門職の基盤はどうあるべきかを確認する。また、教師が力量形成(自己成長)をしていくにはどうしたらよいかについて、ライフコースと関連づけて理解を深める。</p> <p>(テスト:時間の最後に15分)</p>	
<p><2時間目:津金></p> <p>「国の教育政策と世界の教育の動向」</p> <p>学習指導要領・幼稚園教育要領改訂の理念を通して、国の教育政策やOECDをはじめとする世界の教育の動向等を理解し、今後、学校教育に一層求められる「生きる力」の具体化と教育課程への位置付けを考える。</p> <p>(テスト:時間の最後に15分)</p>	<p><持ち物></p> <p>各学校種の学習指導要領・幼稚園教育要領</p>
<p><3時間目:黒田></p> <p>「発達障害の心理学的・生理学的基盤と特別支援教育」</p> <p>子どもの発達に関する心理学や脳科学の最新知見を紹介しながら、こうした知見に基づく特別支援教育の方法について講義する。</p> <p>(テスト:時間の最後に15分)</p>	
<p><4時間目:浅田></p> <p>「自尊感情を高める事例対応実践編」</p> <p>子どもが安心・安全で自己肯定感がもてる「心の居場所」づくり。本講座では、学級・学校における学習・生活指導の重要性と、教育現場でのカウンセリングマインドやアサーションスキルの必要性について理解を深める。</p> <p>(テスト:時間の最後に15分程度)</p>	

< 選択必修領域 >

8月20日(火) 講習教室:124教室	
講座対象者:教諭、養護教諭、栄養教諭	
担当:ヒューマンケア学部 子どもケア学科 客員教授 山田 敏子、准教授 栗田 千恵子	
講座名【選択必修】道徳教育	
<p>< 要旨 ></p> <p>学習指導要領等をもとに、道徳教育の基本的概念を再確認するとともに道徳教育の在り方についての理解を深める。また、平成30年度から始まった「特別の教科 道徳」の効果的な指導方法を身に付けるために、授業実践例を用いて、学習指導案づくり及び授業の指導過程の留意点を考察する。</p>	
各時間の講習内容	備 考
<p><1時間目:山田></p> <p>「道徳教育の基本的な概念の再確認」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法及び学習指導要領の解説 ・道徳教育の目標・教育課程編成の一般方針 ・特別の教科道徳「道徳科」の目標と道徳的価値 <p>(テスト:時間の最後に15分「道徳科の目標と課題」)</p>	
<p><2時間目:山田></p> <p>「道徳教育の課題と道徳科の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭における道徳教育 ・いじめ問題と道徳教育 ・特別の教科道徳「道徳科」の評価 <p>(テスト:時間の最後に15分「いじめ問題への効果的対応」)</p>	
<p><3時間目:栗田></p> <p>「学習指導案作成の力を付ける」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考え議論する道徳」をめざした指導過程 ・多様な考えを表出させる発問の工夫 <p>(テスト:時間の最後に15分「考え議論する道徳とは」)</p>	
<p><4時間目:栗田></p> <p>「授業実践例の分析から目指すべき『これからの道徳授業』へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材を用いた授業「はしのうえのおおかみ」など ・視聴覚教材を用いた授業「償い」など <p>(テスト:時間の最後に10分「自分がやっていきたい道徳授業とは」)</p>	

< 選択領域 >

8月21日(水) 講習教室: 124教室	
講座対象者: 教諭、養護教諭、栄養教諭	
担当: ヒューマンケア学部 子どもケア学科 講師 浜田 恵	
講座名【選択】対人援助者としての自己を理解する	
<p>< 要旨 ></p> <p>学校教育において、児童生徒の理解は当然のことながら、教員は自分自身の行動傾向や考え方のクセ、ストレスとその対処なども正しく知っておく必要がある。適切な自己理解によって、教師として、子どもや保護者にほどよく向き合えるようになっていく。本講習では、教員が自分のメンタルヘルスや対人関係のあり方を理論的・体験的に見つめ直し、自己理解を深めることで、今後の教育活動に資することを目的とする。</p>	
各時間の講習内容	備考
<p><1時間目: 浜田></p> <p>「自分の行動や考え方のクセを知る」</p> <p>行動や考え方(認知)には個人差がありますが、なかなか気づきにくいものもあります。まずは自分自身について気づくところから始めます。</p> <p>(テスト: 時間の最後に15分)</p>	
<p><2時間目: 浜田></p> <p>「発達の特徴を通じた自己理解」</p> <p>行動や考え方のクセを深めて理解するために発達の特徴の理解は欠かせません。発達は誰でも(大人でも)関連するということを知ること、自己理解につながります。</p> <p>(テスト: 時間の最後に15分)</p>	
<p><3時間目: 浜田></p> <p>「メンタルヘルスについて知る」</p> <p>現代では、大人も子どももメンタルヘルスの悪化が懸念されています。特に抑うつに焦点をあて、教師のバーンアウトやストレスの原因や経過について理解します。</p> <p>(テスト: 時間の最後に15分)</p>	
<p><4時間目: 浜田></p> <p>「ストレスマネジメントを実践する」</p> <p>上記3時間の内容を踏まえ、ストレスとうまく付き合うためのストレスマネジメントについて学びます。先生本人はもちろん、生徒にも実施できる方法も取り上げる予定です。</p> <p>(テスト: 時間の最後に15分)</p>	

<選択領域>

8月22日(木) 講習教室:HC206 教室、HB205 教室又はHB106NUAS ホール	
講座対象者:教諭、養護教諭、栄養教諭 (主な校種:幼・小)	
担当:ヒューマンケア学部 子どもケア学科 教授 渡辺 桜、准教授 林 麗子	
講座名【選択】幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿～健康な心と体・豊かな感性と表現を中心に～	
改定指針・要領のポイントは、養護と教育の一体化を基盤とし、環境を通して子どもの主体性を育むことである。情緒の安定(養護)を基にした個々の表現・集団の表現・仲間への意識(養護+教育)について、環境としての共鳴する身体に焦点を当てる。 1・2限は、保育映像視聴(0~5歳児のリズム共有・共鳴場面)を通して改定指針・要領を基に、乳幼児期から学童期における共鳴の重要性を共有する。これを踏まえ、3・4限は、想定対象を乳幼児期・学童期とし、共鳴する身体に焦点を当てたワークショップを行う。 (心身の発達過程を理解することは、心身の健康及び食育とも大きな関わりがある為、養護教諭、栄養教諭も対象とする)	
各時間の講習内容	備考
<p><1時間目:渡辺></p> <p>「人・物・場」が相互に関係し合っていると共鳴は心地よいうねりを生み出す。保育映像視聴を通して、養護と教育の一体化と深く関係する共鳴する身体について、その原理・原則と実践をつなげて考えていく。</p>	<p>「リズムの共有」 「共鳴する身体」と聞いて、思い浮かんだ自身の実践をメモしてください。</p>
<p><2時間目:渡辺></p> <p>1限目をふまえて、事前学習(1時間目の備考参照)に加えられる自身の実践があれば、追加し、参加者同士で「リズムの共有」「共鳴する身体」にかかわる実践を共有する。参加者の実践と1限で得た原理・原則をつなげていく。 (テスト:時間の最後に30分)</p>	
<p><3時間目:林></p> <p>子どもと保育者(教師)との関わりには、言語的/意識的/遅い明示の様式と、身体的/非意識的/速い暗黙的な様式がある。前者は、文字通り、言葉による意識的なやり取りが挙げられる一方で、後者は、視線や表情、声、空間行動、姿勢などを意味する。本時限では、これらの身体的な要素への気づきや理解を深めることを目的とした実技ワークを行う。</p>	<p>※動きやすい格好(スカート不可)と素足で参加 ※運動量は激しくありませんが、飲み物を持参ください</p>
<p><4時間目:林></p> <p>1~3限をふまえて、子どもとの安定した応答関係の中で、子どもと楽しめるからだ遊び、集団遊びの実践と発表を行う。参加者自身が理論と各々の実践を結びつけることを目的とし、最終的に本日の体験を振り返り、参加者間で共有する時間を設ける。 (テスト:時間の最後に30分)</p>	<p>※同上</p>

< 選択領域 >

8月23日(金) 講習教室: 631教室	
講座対象者: 教諭、養護教諭、栄養教諭	
担当: 管理栄養学部 管理栄養学科 准教授 山田 千佳子、講師 榎村 春江	
講座名【選択】食物アレルギーの基礎と対応	
<p>< 要旨 ></p> <p>食物アレルギーの発症およびその抑制に関する基礎知識、食品の低アレルゲン化、食品別アレルギー対応、食物アレルギー患者への栄養指導などを中心に、『食物アレルギーの栄養指導の手引き』『食物アレルギー診療ガイドライン』『学校給食における食物アレルギー対応の手引き』に触れながら解説する。また、食物アレルギー児に対応できる代替食を理解し習得する。</p>	
各時間の講習内容	備 考
<p><1 時間目: 山田></p> <p>「食物アレルギーの発症機構と抑制機構」</p> <p>食物アレルギーがどのように発症する(感作成立から症状誘発まで)のか、またそれを抑制するしくみ(アレルゲンの消化および吸収、経口免疫寛容)について詳細に解説する。</p>	
<p><2 時間目: 山田></p> <p>「食物アレルゲンの特徴と表示」</p> <p>食物アレルギーを発症しやすい食品中のアレルゲンについて、さらに食品の低アレルゲン化や寛容誘導の手法についても詳細に解説する。また、食品表示法について最新の情報を提供する。</p> <p>(テスト: 時間の最後に 30 分)</p>	
<p><3 時間目: 榎村></p> <p>「食物アレルギーの栄養食事指導の実際」</p> <p>食物アレルギー診療ガイドライン 2016 より、食物アレルギー栄養食事指導の原則を理解するとともに、実際の臨床現場で行われている指導内容について解説する。</p>	
<p><4 時間目: 榎村></p> <p>「食物アレルギーの対応給食の基礎と献立例」</p> <p>食物アレルギー児が安全に楽しく食べられる献立作成のポイントと、実際の対応事例を紹介する。卵、乳を除去した行事食を紹介し、(試食あり) 実際の給食現場が抱える問題点について議論する。</p> <p>(テスト: 時間の最後に 30 分)</p>	